

第 145 回 2023 年 7 月投資家アンケート調査結果

アンケート調査にご協力下さりました皆様

7月に実施致しましたアンケート調査にご回答下さり誠にありがとうございます。このたび調査結果をまとめましたのでお送りさせていただきます。ご笑覧賜れましたら幸いです。今後もアンケート調査にご協力いただけるようお願い申し上げます。

2023 年 12 月 25 日 青山学院大学 経営学部 教授 亀坂安紀子
明海大学 経済学部 教授 新井啓

調査の概要

今回の調査では、7月7日以降 282 通の調査票を発送した。送付先の内訳は、銀行・生損保 61 通、証券会社 83 通、投資信託・投資顧問 99 通、その他 39 通である。2023 年 7 月 31 日までに返送された 19 通にもとづいて本アンケートの結果を紹介する。回答率は 6.7%、平均回答日は 7 月 22 日であった。過去 4 回の回収状況は以下の通りである。

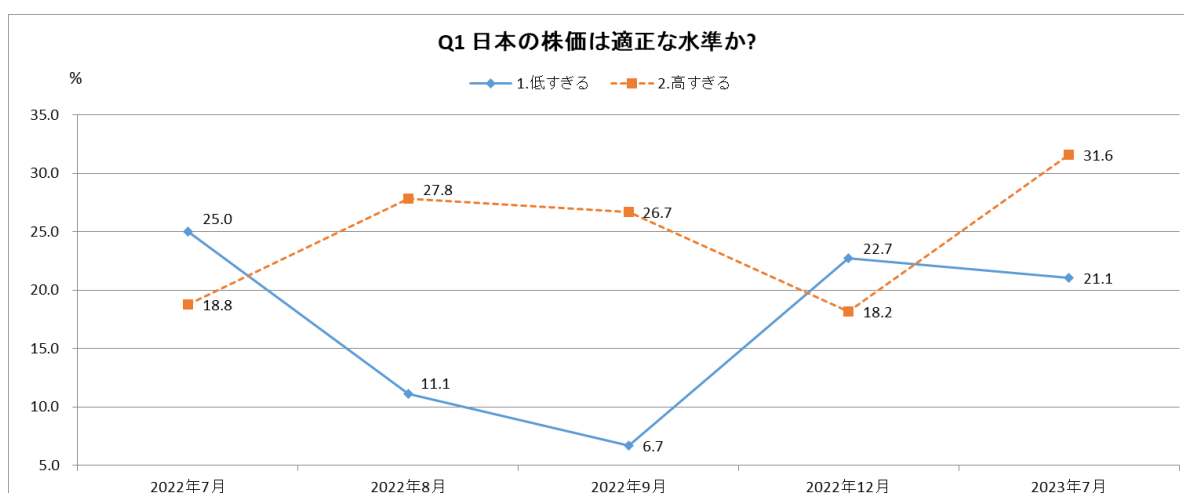
発送開始日	発送数	回答数	回答率
2022/7/4	289	16	5.5%
2022/8/1	287	18	6.3%
2022/9/5	286	15	5.2%
2022/12/5	286	22	7.7%
2023/7/7	282	19	6.7%

定期調査の質問の主要な結果

1. 日本の株価を企業のファンダメンタルズと比較してどう評価するか

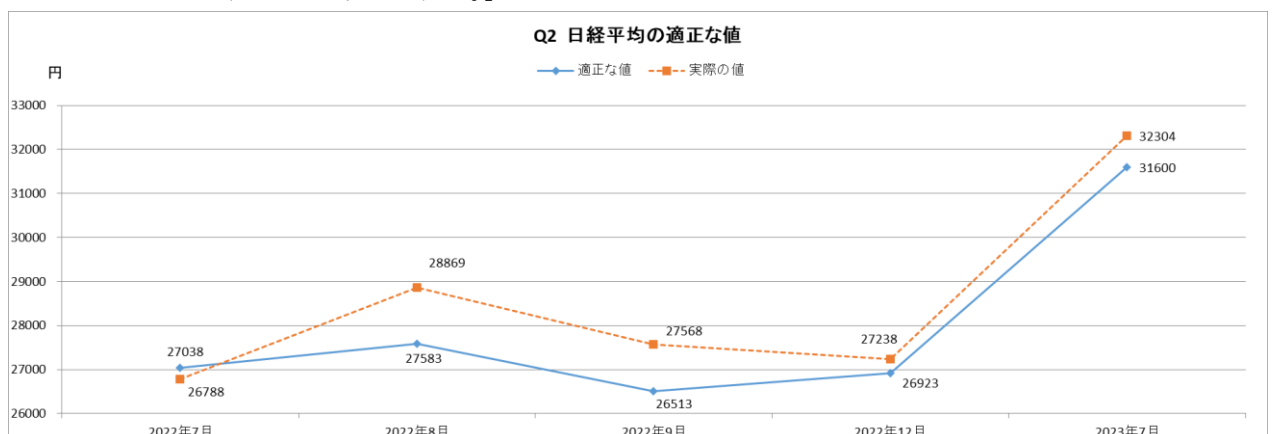
問1. 「日本の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）あるいは合理的な投資価値にくらべて、」

1. 低すぎる 2. 高すぎる 3. ほぼ正しく評価されている 4. わからない



今回の調査においては「2.高すぎる」との回答が「1.低すぎる」との回答を上回っていた。また「2.高すぎる」との回答割合は30%を超えていた。

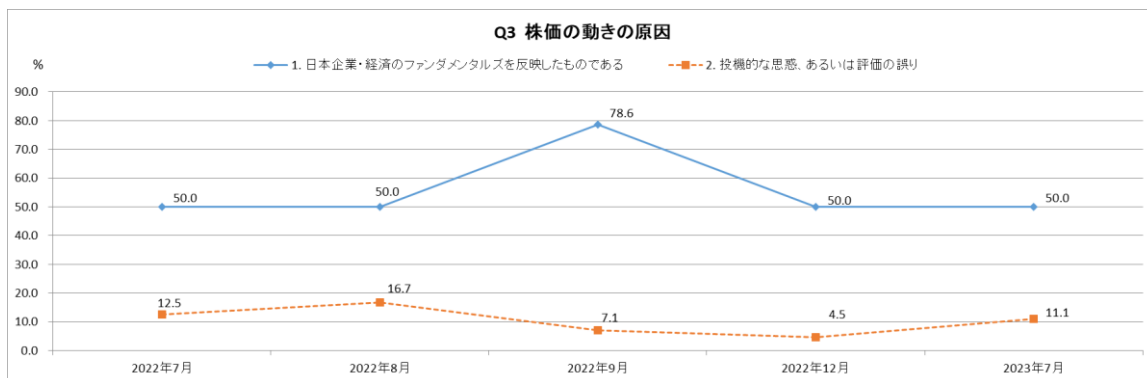
問2. 「日本の株価（日経平均）は企業の実力(ファンダメンタルズ)から見てどのくらいが適正な水準だとお考えですか。」



「適正な値」も「実際の値」も3万円を超えていた。

問3. 「過去6ヶ月間の日本の株価の趨勢的変化の要因はなんだとお思いですか。」

1. 日本企業・経済のファンダメンタルズを反映したものである
2. 投機的な思惑、あるいは評価の誤り
3. その他
4. わからない

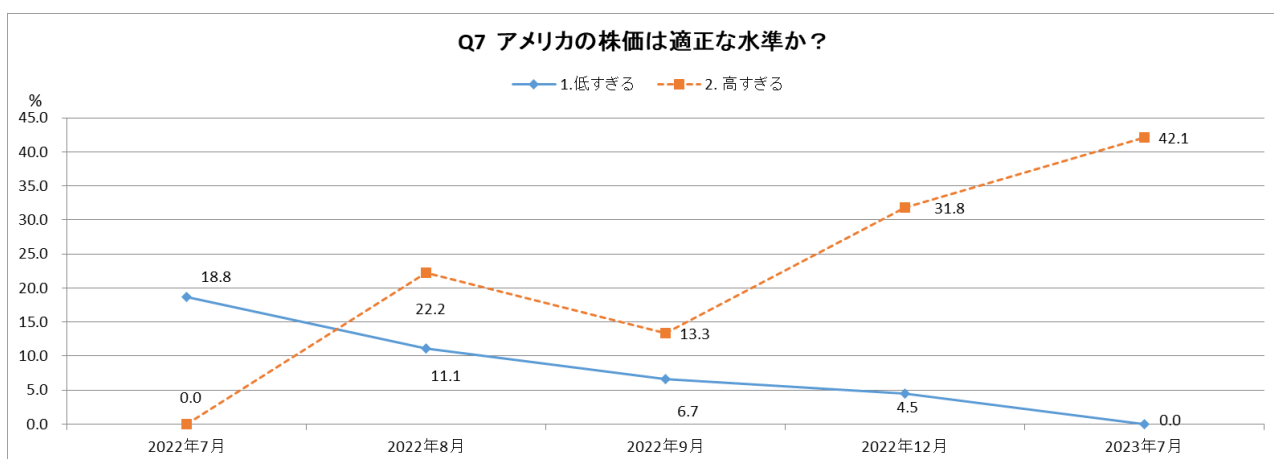


「1.日本企業・経済のファンダメンタルズを反映したものである」の回答割合は前回の調査と同じ50%であったが、「2.投機的な思惑、あるいは評価の誤り」の回答割合は高まっていた。

2. ファンダメンタルズと比較してアメリカの株価をどう評価するか

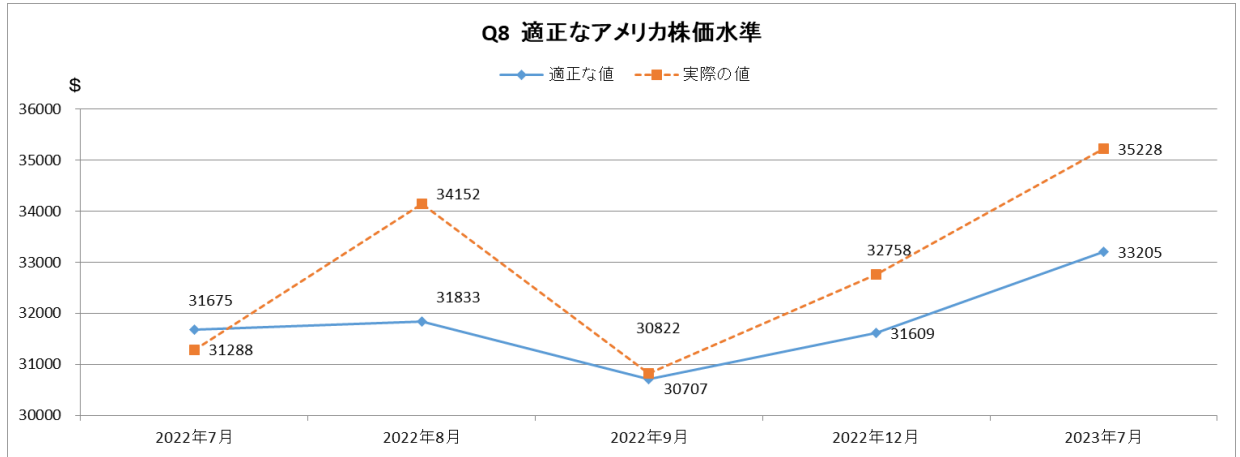
問7. 「アメリカの株価は企業の実力(ファンダメンタルズ)あるいは合理的な投資の価値にくらべて、」

1. 低すぎる
2. 高すぎる
3. ほぼ正しく評価されている
4. わからない



「2.高すぎる」の回答割合は2022年9月調査から高まる傾向にあり、今回の調査では40%を超えていた。「1.低すぎる」の回答割合は2022年7月調査から低下する傾向にある。

問8. 「アメリカの株価（NYダウ）は企業の実力(ファンダメンタルズ)から見てどのくらいが適当な水準だとお考えですか。」



今回の調査においても「実際の値」が「適正な値」を上回っていた。2022年9月調査から「適正な値」と「実際の値」の乖離が大きくなる傾向にある。

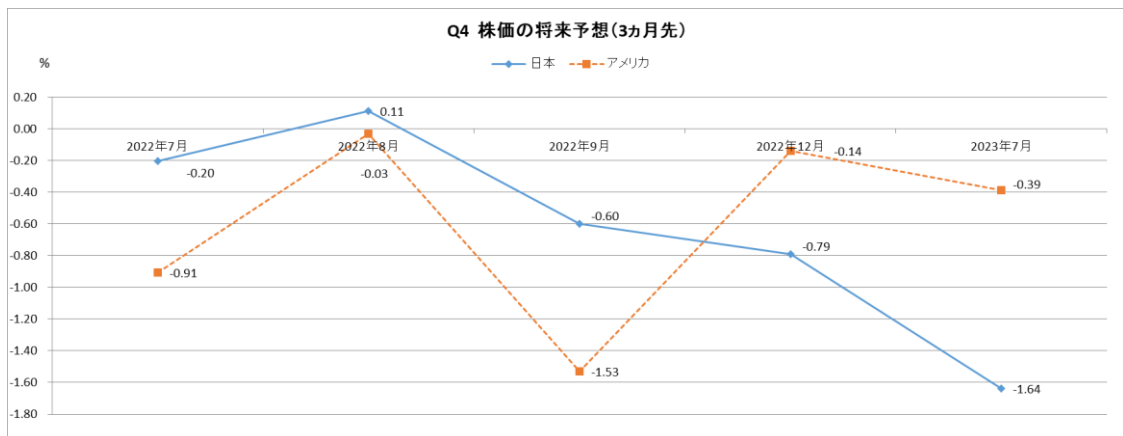
3. 株価の将来予想

問4. 「日米の株価が、将来どう変化すると予想されているか、現在を基準として%でお答えください。(上昇を予想される場合には+ (プラス) を、下降を予想される場合は- (マイナス) を、数値の前におつけください。)」

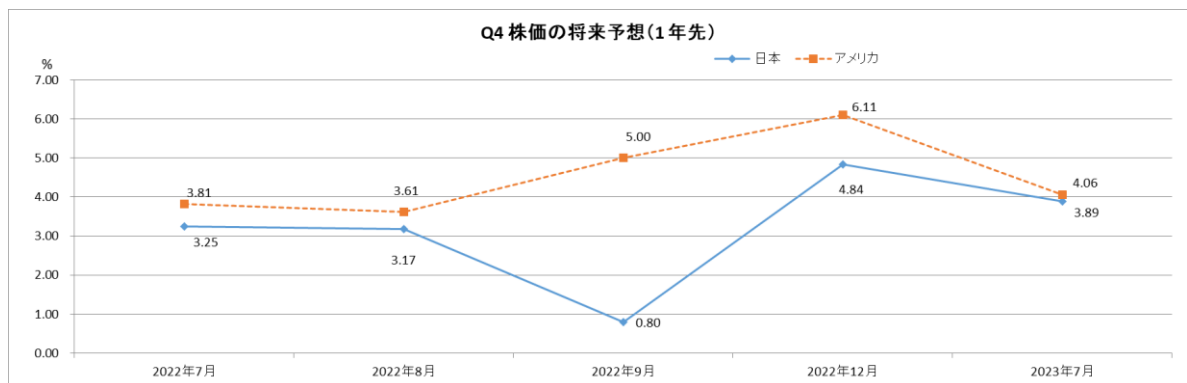
株価の先行き予想についての今回の調査結果は、以下の表のとおりである。(単位、%)

	日経平均株価 予想1ヶ月先	日経平均株価 予想3ヶ月先	日経平均株価 予想6ヶ月先	日経平均株価 予想1年先	日経平均株価 予想10年先
平均	-0.93	-1.64	0.50	3.89	37.15
標準偏差	3.19	5.61	8.23	11.22	45.15
最小値	-5	-11	-20	-25	-30
最大値	5	10	10	20	120
回答数	18	18	18	18	13
	NYダウ 予想1ヶ月先	NYダウ 予想3ヶ月先	NYダウ 予想6ヶ月先	NYダウ 予想1年先	NYダウ 予想10年先
平均	-0.92	-0.39	0.72	4.06	42.46
標準偏差	2.64	4.97	5.89	8.95	47.16
最小値	-5	-7	-10	-20	-30
最大値	5	15	10	20	150
回答数	18	18	18	18	13

前回の調査と同様に日経平均・NYダウ共に1ヵ月先と3ヵ月先の予想がマイナスであった。



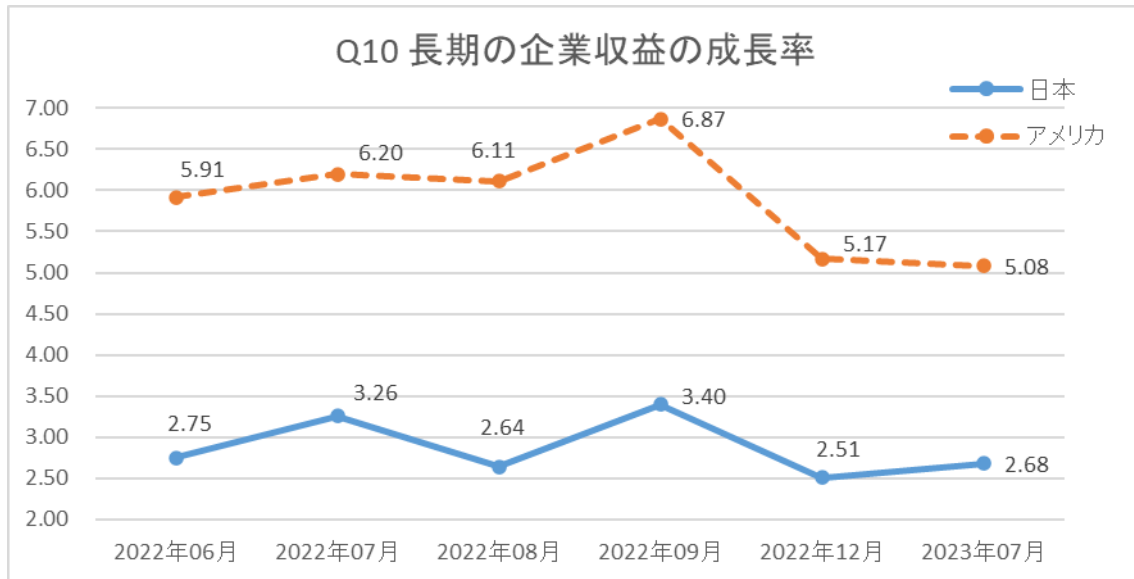
アメリカも日本も下方修正されていたが、日本の方が大きく下方修正されていた。日本については 2022 年 8 月調査から下方修正され続けている。



日本もアメリカも下方修正され、ほぼ同率になっていた。

4. 長期の企業収益予想

問10. 「これから10年間の日本およびアメリカの企業収益の成長率は平均してどのくらいだとお考えですか。名目ではなく、インフレ分をひいた実質成長率でお答えください。」

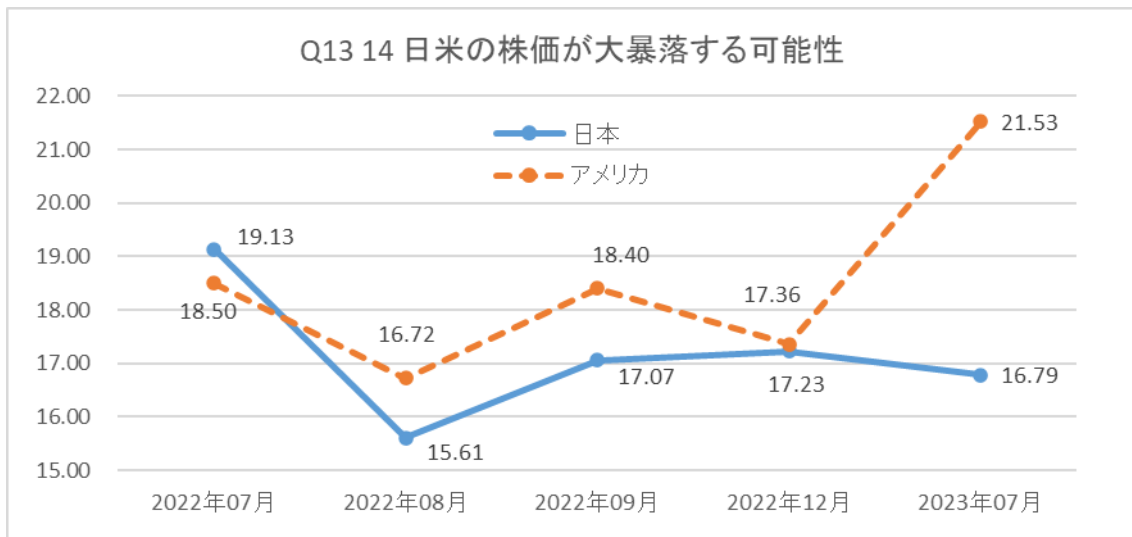


日本については若干上方修正されていた。アメリカについてはわずかに下方修正されていた。

5. 日米株価の安定性

問13. 「今後6ヶ月以内に、日本において、アメリカの1929年の恐慌や1987年のブラックマンデーのような株価の大暴落の起こる可能性はどのくらいあると思いますか。他国の市場で発生した暴落が伝播する場合も含めます。まったく起こらないと思えば0%、必ず起こると思えば100%というようにお答えください。」

問14. 上記の問をアメリカについて質問。

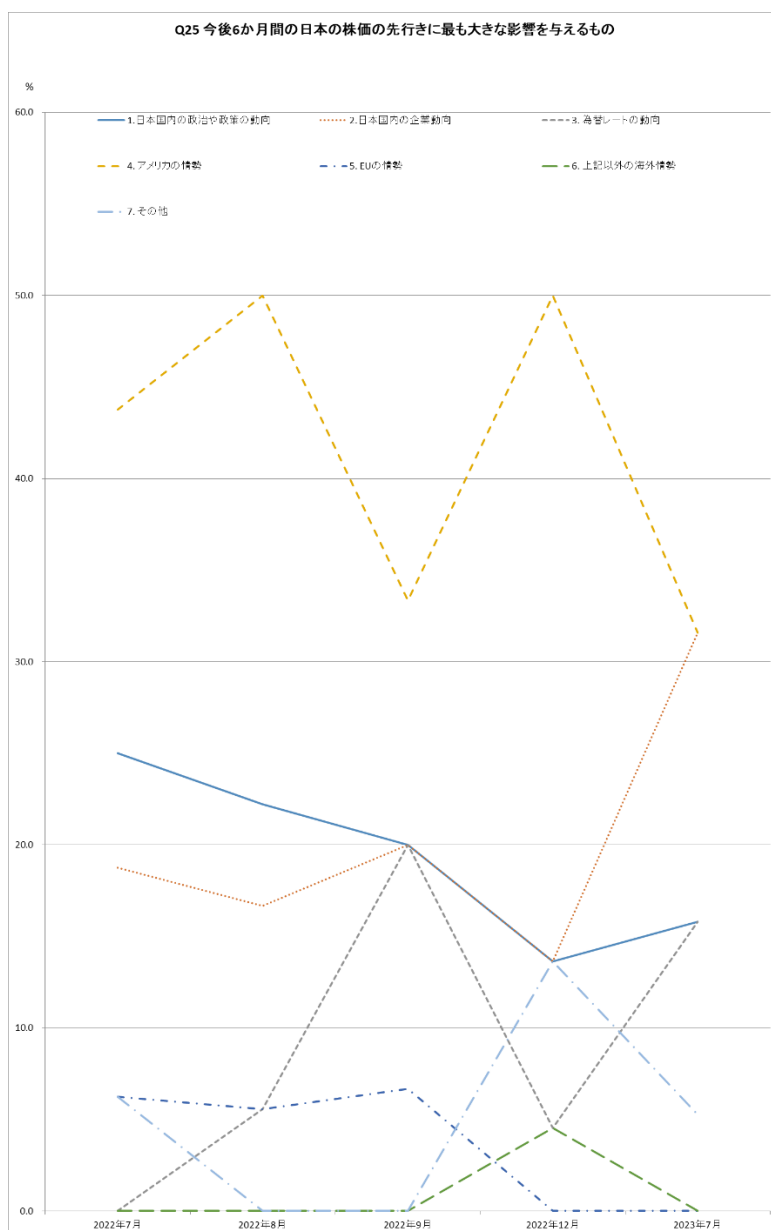


アメリカについては大きく高まっていたが、日本については若干低下していた。

臨時（近年追加した）調査項目の集計結果

問25. 「今後6か月間の日本の株価の先行きに最も大きな影響を与えるのは、次のどれだ
とお考えですか。」

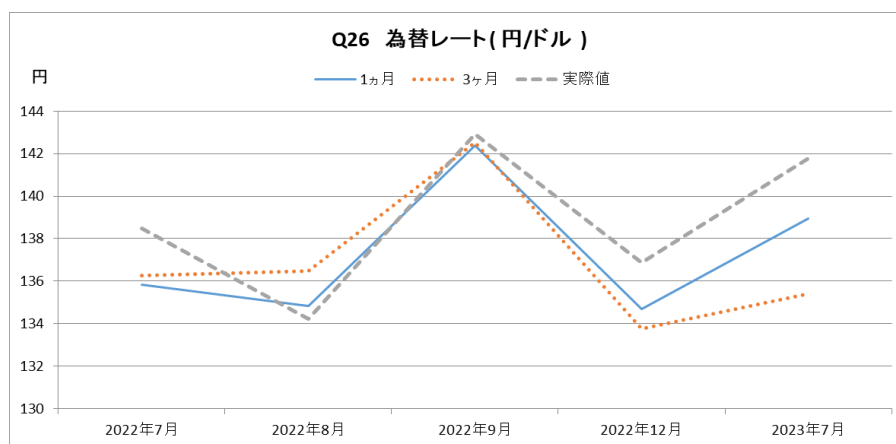
- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 日本国内の政治や政策の動向 | 2. 日本国内の企業動向 |
| 3. 為替レート | 4. アメリカの情勢 |
| 5. EUの情勢 | 6. 上記以外の海外情勢 |
| 7. その他 | |



問26. 「1ヶ月先、3ヶ月先のアメリカドル／日本円レートはいくらぐらいになると予想されますか。」

1ヶ月先 1ドル= _____ 円

3ヶ月先 1ドル= _____ 円

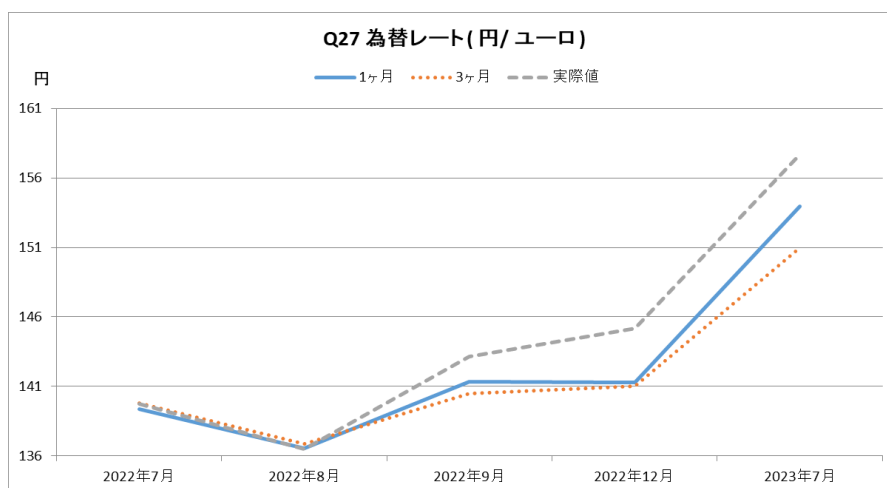


1ヶ月先、3ヶ月先の予想値、実際値はすべて円安方向へ修正されていた。「実際値」が最も円安の水準にあり、1ヶ月先、3ヶ月先の予想値と大きく乖離していた。また1ヶ月先と3ヶ月先の予想値の乖離もかなり大きくなっていた。

問27. 「1ヶ月先、3ヶ月先の欧州ユーロ／日本円レートはいくらぐらいになると予想されますか。」

1ヶ月先 1ユーロ= _____ 円

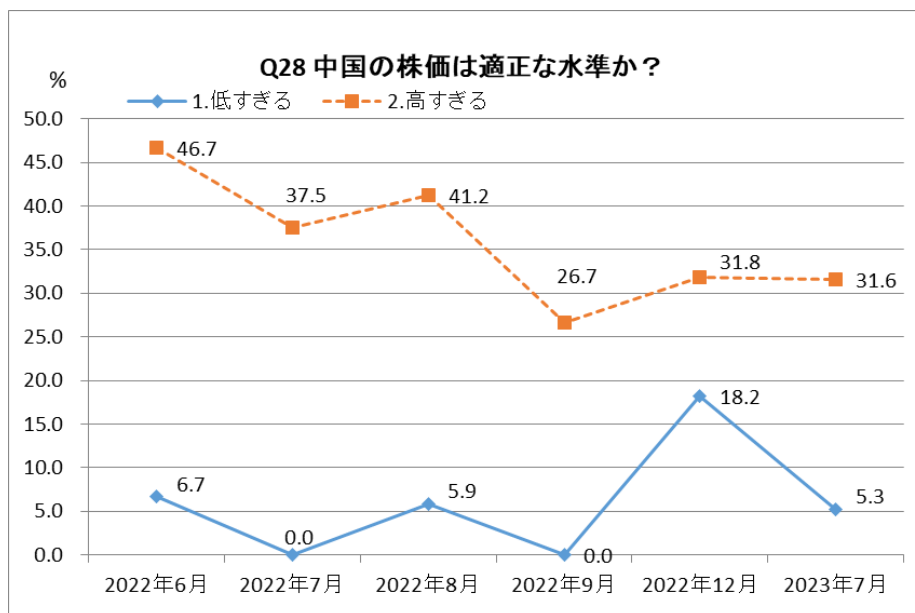
3ヶ月先 1ユーロ= _____ 円



今回の調査においては「実際の値」が最も円安の水準にあった。1ヶ月先、3ヶ月先の予想値より大きく円安方向に修正されており、1ヶ月先の予想値と実際の値との乖離は昨年12月の調査と同様に、依然として大きかった。

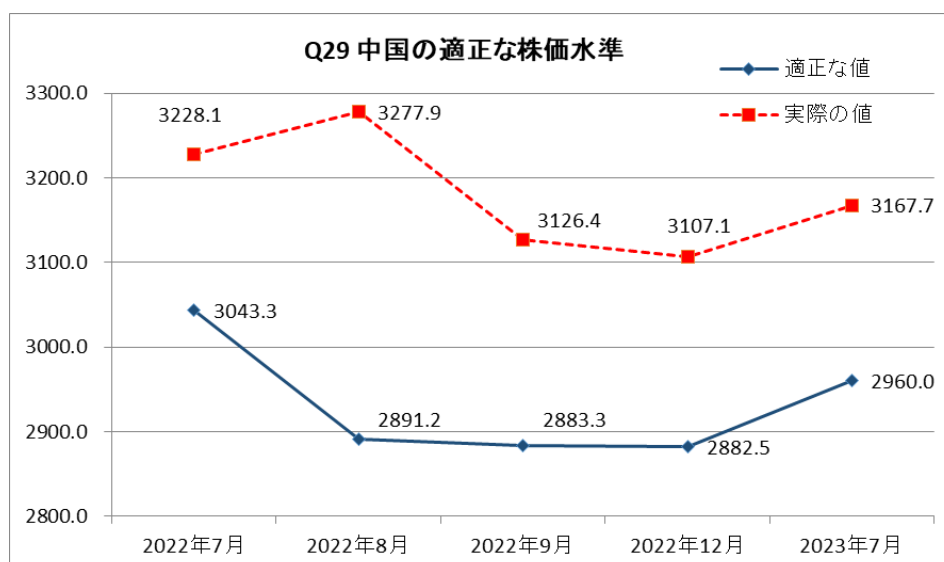
問28. 「中国の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）あるいは合理的な投資価値にくらべて、」

1. 低すぎる 2. 高すぎる 3. ほぼ正しく評価されている 4. わからない



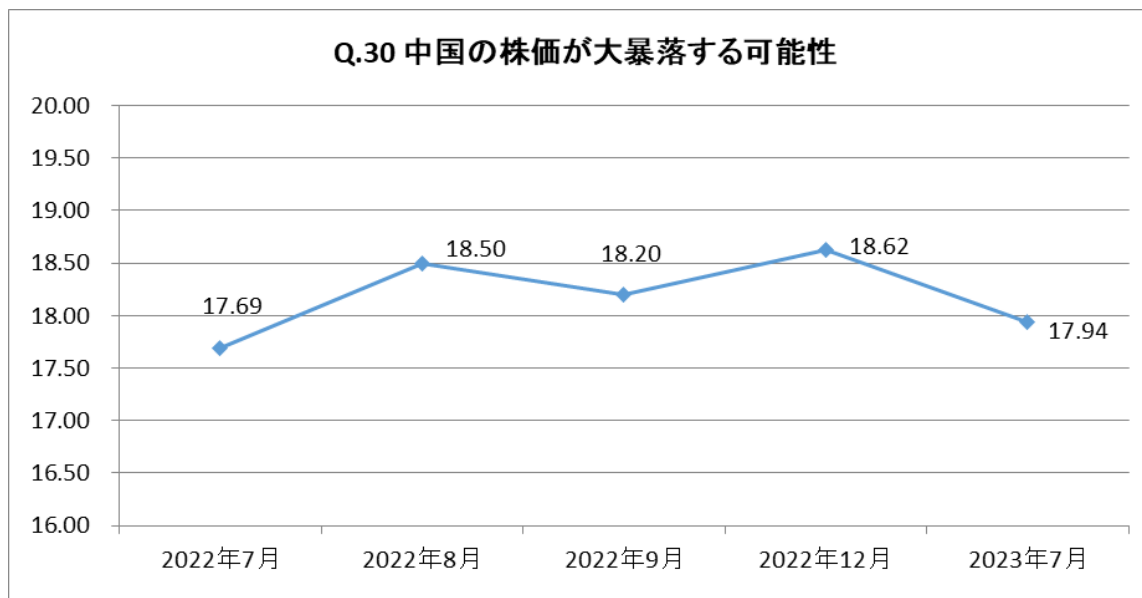
「2. 高すぎる」の回答割合は前回の調査とほぼ同じ水準であった。「1. 低すぎる」の回答割合は前回の調査と比較すると大きく低下していた。

問29. 「中国の株価（上海総合指数）は企業の実力（ファンダメンタルズ）から見てどのくらいが適正な水準だとお考えですか。」



中国株の「適正な値」は、前回の調査から上方修正されていた。

問30. 「今後6ヶ月以内に、中国において、アメリカの1929年の恐慌や1987年のブラックマンデーのような株価の大暴落が（再び）起こる可能性はどのくらいあると思いますか。他国の市場で発生した暴落が伝播する場合も含めます。まったく起こらないと思えば0%、必ず起こると思えば100%というようにお答えください。」



中国の株価が大暴落する可能性は、2022年7月調査以降大きく変化していない。

自由コメントの紹介（掲載可能として頂いたコメントの要約）

問3の質問に対して、以下のコメントをいただいた。

- コーポレート・ガバナンスの改革等への期待
- アジア投資枠の中での中国・香港ウェートを大幅に引下げて、日本への投資ウェートを大幅増額していることが主要因ではないか
- 日本企業の株主還元に対する意識の変化
- 日銀による金融緩和維持姿勢を受けた円安
- 海外勢による日本株に対する見直し機運に加え、国内外のインフレ圧力を背景に現預金活用意識が高まりリスク選好が継続している

以上